



飛鶴の森林から

発行日
2014年3月31日 第85号
林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

森林環境教育 支援のお知らせ

当ふれあいセンターでは、森林環境教育の支援に取り組んでいますので、その内容の一部をご紹介します。
なお、現在、各学年の教科書に沿った森林環境教育プログラムの作成に取り組んでいます。



2単元の場合
1単元に加えて、
校庭の樹木の名前やその特徴を学習します。



▽ 説明の様子

1単元の場合
森林のはたらきについて、
パネルやスライドにより学習します。



その他
飾り炭の作成や木工教室の支援、
カミネットコンの作成と植樹等の体験学習もご相談下さい。



△ 輪尺(りんじゃく)で木の太さを測定

3単元の場合
1単元・2単元に加えて、校庭の樹木の
太さや高さを測り、炭素貯蔵量の算出方法を学習します。



△ 専用器具で樹高を測定

▽ 静かにゆったりと流れる釧路川



▽ キンムトウ



▽ 硫黄山が見えて来ました



▽ ノリウツギ (達古武湖畔)



国道391号沿いに立てられた「青葉トンネル」の看板から、車で砂利道を僅かに進み、さらに徒歩で数分歩くと細い小道に出ました。これを北の方向に進むと硫黄山が見え、レストハウスの裏に出ましたので、これが旧鉄道の敷地と思われ、昔の出役の囚徒は徐々に増加され、そこで悲惨な状況が起きました。山に看守も、山の至る所から噴出する、亜硫酸ガスや硫黄の粉塵がたまり、眼病患者が連続して発生し、両眼失明に陥る者も発生。

また、近くの水質は悪く、消化器病になる患者や集治監から遠いため食料も不足して、栄養失調による水腫病(脚気)になる患者が続出。僅か6ヶ月間で出役していた300余名のうち、145名が罹病し、死亡者は42名、15名が失明したとのこと。

明治20年8月、兵庫仮留監の教諭師原胤昭(はらたねあき)が、硫黄山を視察してこの惨状を目撃。典獄(集治監のトップ)の大井上輝前(おおいのうてるちか)に就業の中止を進言。大井上は、原に同行して硫黄山に出向き、深刻な現実に驚愕。採掘事業者との契約を破棄して過酷な労役に終止符が打たれます。硫黄の採掘量も近代的な生産方式を導入して増産を重ねたため、品質も落ち、明治29年に採掘を停止。鉄道も営業停止となりました。

アトサヌプリを後にして、国道391号を数キロ南下。池の湯林道を使って、国有林に入り、秘めたる沼、キンムトウに立ち寄った後、いわゆる釧路湿原東部3湖沼と、細岡展望台を訪れました。

の帰りに、釧路川の近くで見かけたのが、多くの囚徒がこの川を渡り、精練で送られる。



▽ 位置図

※釧路集治監に関する記述は、主に「標茶町史 第一巻 通史編」(標茶町史編さん委員会著) によりました。

された硫黄が釧路川を下り、硫黄採掘などによる労役により多くの囚徒が命を落した。この川を生きて再び下ることができなかったことを考えると、複雑な気持ちになります。しかし、悠然と流れる釧路川に今やその面影は残っていません。一日がかりで、釧路川流域を中心に大急ぎで巡って回りました。しかし、釧路地域の名所のほんの一部を訪れたに過ぎず、一日や二日で全てを回りきれぬものではない。魅力たっぷりの釧路地域。四季を問わず、是非お越し下さい。



釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305

【E-mail】h_kusiro_f@rinya.maff.go.jp

【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

当ふれあい推進センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むNPO等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。